

会 議 録 （要 旨）

会 議 名	第4回武蔵村山市農業振興計画策定検討委員会
開 催 日 時	平成29年4月18日（火）午後1時30分から3時30分
開 催 場 所	301会議室
出席者及び欠席者	<p>出席委員：北 沢 俊 春 東京都農業会議事務局長（委員長）</p> <p>今 安 典 子 東京都農業振興事務所農務課課長代理</p> <p>高 橋 誠 武蔵村山市商工会事務局長</p> <p>高 山 充 則 武蔵村山市農業委員会会長（副委員長）</p> <p>山 田 和 男 武蔵村山市農業生産組合組合長</p> <p>荒 幡 善 政 認定農業者</p> <p>鈴 木 寿 子 武蔵村山市消費者団体連絡会</p> <p>小 暮 保 東京みどり農業協同組合村山支店支店長</p> <p>高 下 慎 吾 ダイエー武蔵村山店副支店長</p> <p>高 梨 和 人 公募市民</p> <p>永 村 清 市 公募市民</p> <p>欠席委員：奥 住 雄 一 武蔵村山市農友会会長</p> <p>下 田 智 道 認定農業者</p> <p>細 野 敏 彦 公募市民</p> <p>事 務 局：協働推進部長 比留間 毅 浩</p> <p>協働推進部産業観光課主査 井 上 ひとえ</p> <p>協働推進部産業観光課主事 石 川 彰 彦</p>
議 題 等	<p>1 開会</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 武蔵村山市農業振興計画策定検討委員会委員名簿について</p> <p>(2) 第3回武蔵村山市農業振興計画策定検討委員会会議録について</p> <p>(3) 武蔵村山市第三次農業振興計画策定にかかる市民及び農業者アンケート調査報告書に配布について</p> <p>3 議題</p> <p>(1) 武蔵村山市第三次農業振興計画素案について</p> <p>(2) 武蔵村山市第三次農業振興計画策定スケジュール（案）について</p> <p>(3) その他</p> <p>4 閉会</p>
結 論 （決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。）	<p>3 議題</p> <p>(1) 武蔵村山市第三次農業振興計画素案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画書としての構成について、国や都の法律・計画等については資料編等へ整理する。 ・将来像について考え方の意見交換を行った。これに基づいて事務局で案を作

	<p>成する。</p> <p>(2) 武蔵村山市第三次農業振興計画策定スケジュール（案）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局案を確認した。 <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回会議は、6月1日15時からとする。 ・会議録は事前に各委員へ送付し、委員会の場で決定する。
<p>審 議 経 過 （主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。）</p>	<p>1 開会</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 武蔵村山市農業振興計画策定検討委員会委員名簿について (事務局) 農友会の会長が代わったので、新しい名簿を配布した。</p> <p>(2) 第3回武蔵村山市農業振興計画策定検討委員会会議録について (事務局) 会議録の内容に誤り等あれば、来週の月曜までに事務局まで連絡をお願いする。 (委員) 今後の会議録については、事前に送付いただき、会議の場で決定するようにしていただきたい。 (事務局) そのようにする。</p> <p>(3) 武蔵村山市第三次農業振興計画策定にかかる市民及び農業者アンケート調査報告書に配布について (事務局) アンケート調査報告書が完成したので配布する。 (委員) これまでのアンケート関係の資料は不要か。また報告書は公表されるものか。 (事務局) これまでの資料は不要であり、報告書は公表するものである。</p> <p>(事務局) 4月から組織改正があり、産業観光課が産業振興課と観光課に分割され、産業振興課が所管することとなったことを報告する。</p> <p>3 議題</p> <p>(1) 武蔵村山市第三次農業振興計画素案について (事務局) 資料1 武蔵村山市第三次農業振興計画素案について説明</p> <p>—質疑・意見等—</p> <p>(委員長) 素案の構成は、この資料のままになるのか。振興計画なので、現状分析や市の取組があって、資料編に国や都の施策を入れておけばよいのではないか。第2章が異質のように感じる。 (委員) これまでの議論で、そのようなことだったと思う。</p>

(委員) 最終的にどのような構成になるかわからないので意見を出しにくい。A3判の資料に到達するための基礎資料を前段に入れていると捉えてよいか。

(事務局) これまで、中間報告ということで整理していたが、庁内で検討した中で、素案をお示しし委員会で了解をいただきながら固めていくことにしたいと考えている。

計画書としての編集はまだであるが、第1章の現状は必要だと考えている。また、第3章の第二次農業振興計画の進捗状況は整理し掲載するが、第2章、第3章のその他の部分は省略できると考えている。第4章は、アンケートの結果概要ということで、抜粋して掲載していく。また、計画の骨格になる部分については、次回以降、順次お示ししていきたい。

(委員長) 最終的には構成が変わるということであり、第二次の進捗状況はきちんと把握して、その後に将来像を検討していく、とのことである。

進捗状況についていかがか。

(委員) ボランティアさんにお手伝いいただいているが、市には、このところ力を入れていただいている。

(委員) 学校、保育園への給食について、あゆみ保育園では、夏に地元のトマト、トウモロコシを使ったりしている。一部の野菜は、地元の農家から購入しているという。最近、中藤から中央に移転して、どうなったかわからないが、そのような実態であった。

(副委員長) 武蔵村山の農業者は、がんばって農業をやっており、いいものをつくって市場で評価をされている人もいる。自分の農業をさらに高めるために、さらに他のものをつくろうとしている人もいる。農林水産大臣賞を受賞した方もおり、小松菜を少しいただいて食べたら、今までに食べたことのないような味だった。しかし、武蔵村山の中で、消費者が購入できているだろうか。食べたことがないのではないか。

小松菜は皆さんがつくっているが、種や品質が違っている。江戸川、八王子に劣らない小松菜を生産している。そういう小松菜を市民が食べられれば、小松菜だけでないが、もっと地産地消が広がっていくと思う。そのため「地場野菜ここにありと。」わかるような施策を入れていくと良いと思う。

これが10年後の一つのイメージだと思う。第二次の施策の流れから、今後、これからの施策が変わっていくところだと思うので、優先順位をつけてやっていくべきだと思う。

農地のこと、担い手のこと、いろいろあるが、個別に入っていくことも大事だし、意見交換しながら計画をまとめていければよいと思う。

(委員) 地産地消と、もう一つ、産地化があるが、これらはある意味矛盾している。武蔵村山の小松菜というブランドになると、ある一定以上の水準で取引されていて、真冬などは東北のほうに持っていかれており、地元では購入できないという矛盾があることを頭に入れておかないといけ

ない。

(委員) 地場のものを食べたいと思うが、生活クラブ生協で希望してもあまり希望通り購入できず食べられない状態である。

(委員) 作付されている農産物の量がある程度あると思うが、どこに出荷されているのか。

(委員) 都内もあるが、ある程度量がまとまると、市場からどこかへ持ってってしまうようだ。

(委員) 土壌によっても小松菜の味が違っており、また、食べた人、個人の感覚による差も大きい。

(委員) ダイエーでも、武蔵村山産の農産物を販売している。販路はあるので、当店を利用していただければと思う。皆さんに食べてもらえるよう機会をつくっていきたいと考えており、現状は月1回のペースで販売している。お客さんもついてきており、これから生産量も増えていけば、消費も増えると思う。

(委員長) 食べているうちに市民も美味しさがわかってくると思う。

(委員) 仕入れている商品と、武蔵村山産の農産物は違うことが、見ただけでわかる。

(委員長) 次に、素案の将来像について。

(事務局) 将来像については、ABCから選んでいただきたい。

(委員長) 3つの柱があり、それぞれ4つに分かれているが、いかがか。

(委員) 武蔵村山の人に食べていただくこともよいが、東京の野菜を東京の人に食べてもらう、ということでもよいのではないか。

後継者の問題もあるので、儲からないと農業をやる人が減ってしまう。オリンピックもあり、GAPもある。武蔵村山は都心に近く、鮮度のある農産物を届けられる。東京の武蔵村山ということ、打ち出していくべきだと思う。

(委員長) 市のPRにもなる。

(委員) 将来像の中身はこれで良いと思う。

Cはイメージしにくく、拡散するという言葉はなじまないと思う。AとBを混ぜ合わせて整理してはいかがか。なお、耕す、つながる、潤う、という言葉はいいと思う。

(委員) 課題の柱とあまり変わっていない。考え方は前回と大きくは変わっていないと思うので、農地を守る、都市農地を守る、ということが当然のこととなっている。

しかし、都市農地が重要だという理念は都市農業振興基本法のできたので強調しなくてもよいと思う。順番を入れ替え、まずは専門農家からバラエティ豊かな担い手にいたるまで、長く続けられるような取組を進めていくようにしてはいかがか。ブランド化ができるような市、区であればよいが、その人にあった支援を行っていく、ということも最初に位置づけてはいかがかと思う。ニーズの高いところから並べたほうがよい

と思う。

(委員) 差し替える前の資料とは順が違っているが、確かに重要な順に並べた方が良いと思う。

60代以上が農業の担い手の中心世代であり、10年後どうなっているだろうか。長期的に農業を続けられるように、「人」を最初にもってきてはどうか。

柱は3本で良く、「潤う」というところは、体験農園などいろいろな取組があるので、3番目で良いと思う。

(事務局) 産業としての農業の確立が重要だと思っている。

(委員) 農外収入もあるので、農業だけで、と言わなくてもよいと思う。業として成り立つことは大切だが、市街化区域のいいところでもあるので、農外収入がある人も農業だけで1000万稼いでいる人も含めて、産業として経営が成り立っていくような支援が必要だと思う。

(委員) 農家がつながることには意味がある。親子で食事していても同じ話題で話ができる。また、都市近郊では労働生産性があるので、農地が減っても食べていける。

小松菜が流行ったのは、何回も回せるからであり、武蔵村山は一人当たりの農地面積は小さい。その点ではハウスなどがもっと流行ってもいいと思う。

(委員長) 農家は、ご飯を食べながら、今日何をつくるか、何をするか、という話を親子でできるところがよいと。

(委員) 親子で別の仕事をしていると、ご飯食べていても仕事の話にはならないと思う。

(委員長) 農業で収入が増えるようになると、親子、夫婦、家族で共通の話題が増えてくる。どうしたら売れるようになるか、という施策、支援になってくるということで良いのではないか。

3つの柱に4つずつ項目があるが、多摩開墾と都市農地を分けてはいいかがか。

(委員) 農業委員をしているときの印象では、多摩開墾は市街化調整区域であり、固定資産税もあがらないところだから行政として事業をしにくい、という思いがあったようだ。

市街化調整区域の農地は宝だということを東京都にも認識していただいて支援をお願いしたい。

(委員長) その他に、農地の多面的機能の保全のほか、農地の流動化、貸し借りの可能性も出てくると思う。土づくりもでてくる。いいものをつくるにはいい土づくりが大事である。

(委員) 土づくりの考え方が昔とは違ってきているように思う。し尿などの有機質を畑に戻すのはよくない、という話は50年前のことである。だから当時は化学肥料を使っていた。今は、有機質を使うのが土づくりとなっている。

(委員長) 機械、施設はどこに入るか。

(委員) 経営支援のところによいと思うがA3の資料には無いので、気になる。担い手のところで、認定農業者への支援などがあるので、そこに入れていただきたい。

多面的機能の発揮は、(3)のところにも入ってくる。(1)でも(3)でも良く、緑地空間としても捉えたい。

(委員長) 人のところでは、認定農業者という言葉を入れたほうがよいと思う。若手農業者、女性も入ってくる。

(委員) 援農ボランティアを育成することを位置づけてほしい。そのため、市民のかたが、農家と接する機会をつくれないうか。

また、どうしたら援農ボランティアを増やせるか。入れたいと思うが、農業体験も40人くらいになってくれば、力になると思う。

(委員) 農作業の受託を、担い手の確保・育成ということで施策に入れてほしい。

(委員) 技術の伝承については、指導農業士を活用、育成して、後継者に伝承して行ってほしい。

(委員長) 地産地消と食育は、柱を分けてもよい。

(委員) 農福連携についてはどのように考えているか。

(事務局) 農福連携については、農業者へのアンケートでも要望は少なかったもので強調していない。

(副委員長) 農業者からは要望が低い、商工業者など逆からの要望が高いということはないだろうか。

(委員) 農家の中に、新商品をやろうという人はいらっしやらないか。

(委員) 新しい農産物をつくって試しているが、半分はうまくいかない状況である。

(委員) お茶農家で商品化したりするなど、個々にはアイデアを温めているのではないか。昭島では、拝島ネギで「ネギ味噌」をつくっている。

(委員) イタリア野菜が流行っているということで、そういう方向も考えられるのではないか。

(委員) 新しい野菜の導入などを個人ではコストが高すぎ、グループでやっていかないと合わない。

(委員) 昔、村山ではサツマイモがたくさんとれて、でんぷん工場があった。それを水あめにする水あめ屋さんが30軒くらいあったと聞く。漬物屋さんもたくさんあったようだ。

(委員) 今日では、粉を引くところなくなった。

(委員) うどんは、小麦をつくらなくなり浸透はしていかない。

(委員長) 昔、この地域でつくっていたものが計画を検討する際のベースになってくるのではないか。それを現代風にアレンジしていく。新しい野菜をつくるのもあるし、古い野菜、漬物もあると思う。

昔からあったものを出し切れれば、その中からいいものが出てこない

か。農家レストランで、農家の納屋、蔵を使えば、特徴あるものになってくる。

(事務局) これまでの議論を参考に再構築して、AとBを元に1つの案としてまとめ、次回の委員会に示したい。

(委員) Bの(1)から(3)は生かしてほしい。

(事務局) 了解した。

(委員長) PRには、市外へのPRも含むか。

(事務局) 市外へのPRも含む。武蔵村山の野菜として認知していただく、武蔵村山だったらこれと思いきわぶような、発信をしていきたい。

(委員) 武蔵村山は、都内でみかんがトップクラス、お茶は3位くらいだと思う。

(事務局) そういうものを使って、魅力づくり事業として体験、理解していただけるような取組を進めている。説明できる人を育てる、そういう事業を行っており、今年度も行う予定である。

(委員) フェイスブックで情報発信している農業者もいる。

(委員長) 武蔵村山には、売りがいっぱいありそうだ。サツマイモが昔からあるのなら、幼稚園の遠足にも使える。

(委員) 当方では、そのためにサツマイモ畑をつくっている状態でもある。

(事務局) 戦略プロジェクトは、重点的に取り組むものを位置づけたいと考えている。いただいたご意見をふまえ、充実させていきたい。

(委員) 指導農業士さんをマイスターとして活用していくことが考えられる。神奈川で「マイスター」、大阪で「農の匠」などという言い方をしている。東京都でもネーミングを検討している。

他の市では、こういう話が出てこない。小松菜を次世代につなげていく「小松菜マイスター」でも良いと思う。

(委員) 農のある風景のデザイン化は抽象的であるが、横田基地と農地を写真に撮りに来る人もいるし、富士山が見えたり、横田基地の落下傘降下があったり、基地の人が散歩していたり、珍しい風景がある。

(委員) 横田基地との関係では、市民団体に「友好クラブ」がある。

(委員) 横田基地の人たちも、農業をやりたいと思わないだろうか。

(委員長) 多摩開墾はここにしかない風景だと思う。多摩開墾は武蔵村山の宝だと思う。

(委員) トライアルコースについては、ここから援農ボランティアにつながるような組立にできるとよい。

(委員長) 本日出された意見をふまえ、計画案を取りまとめていただく。

(2) 武蔵村山市第三次農業振興計画策定スケジュール(案)について

(事務局) 資料2 武蔵村山市第三次農業振興計画策定スケジュール(案)について説明

	<p>－質疑・意見等－ 特になし</p> <p>(3) その他 (事務局) 次回の会議は、6月1日(木)午後3時からとしたい。</p> <p>3 閉会</p>
--	---

<p>会議の公開・ 非公開の別</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 公開 傍聴者： <u> 0 </u> 人</p> <p><input type="checkbox"/> 一部公開</p> <p><input type="checkbox"/> 非公開</p> <p>※一部公開又は非公開とした理由 { }</p>
-------------------------	---

<p>会議録の開示・ 非開示の別</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 開示</p> <p><input type="checkbox"/> 一部開示 (根拠法令等：)</p> <p><input type="checkbox"/> 非開示 (根拠法令等：)</p>
--------------------------	--

<p>庶務担当課</p>	<p>協働推進部 産業振興課 (内線：226)</p>
--------------	-----------------------------